



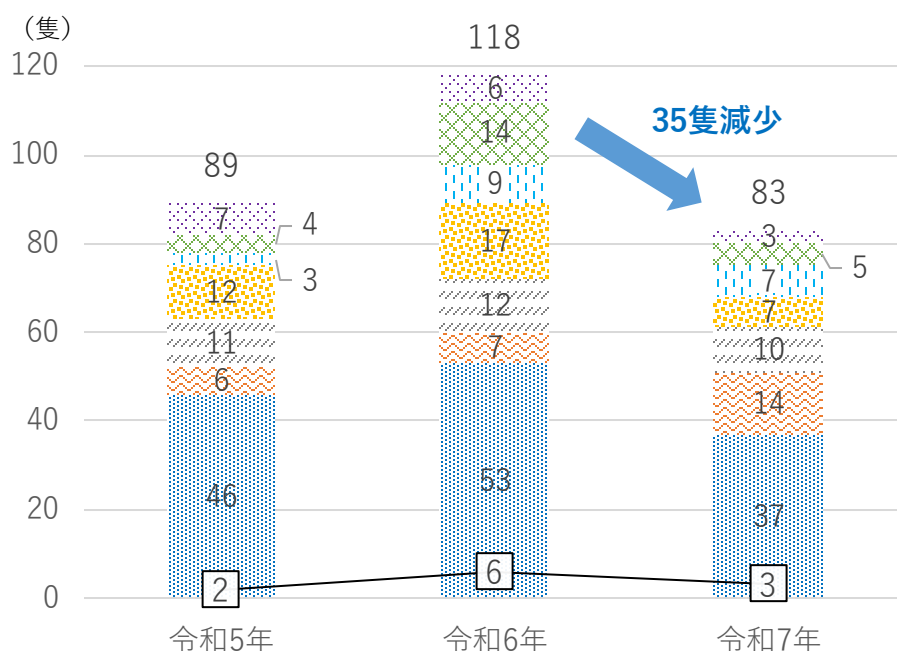
令和7年における東北地方の海難発生状況（速報値）

船舶事故※1隻数は83隻（前年比35隻減少）死者・行方不明者は3人（前年比3人減少）

人身事故者数は146人（前年比45人減少）死者・行方不明者は54人（前年比11人減少）

マリンレジャー※3に伴う事故者数については、**3年連続減少**

船舶事故発生状況

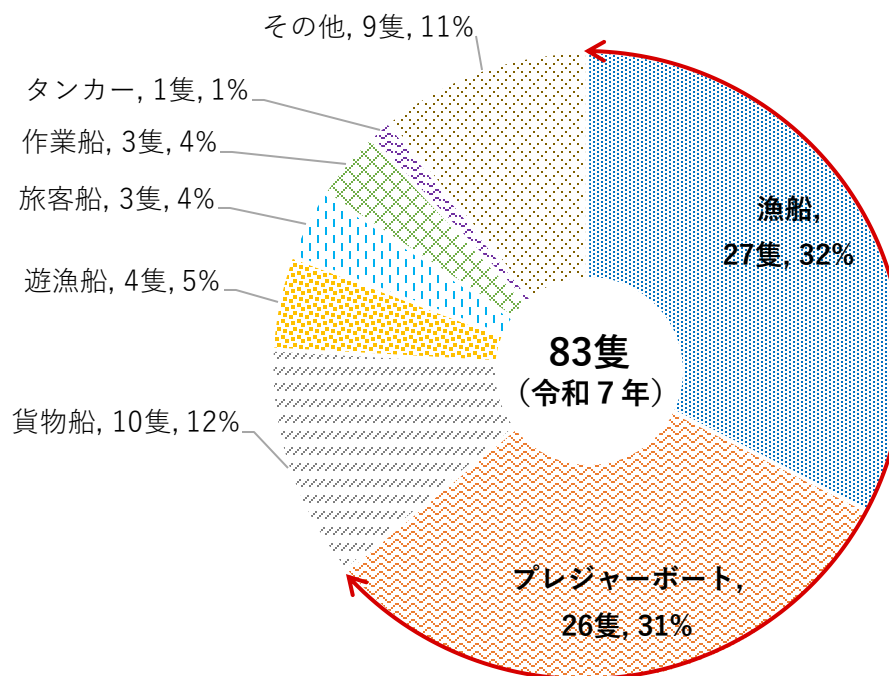


(海難種類別)

令和6年と比較し、事故隻数が大幅に減少しているが、令和6年1、2月に発達した低気圧の影響により、東北地方の漁港等において、係留船舶の転覆・漂流の事故が多発（被害26隻）。

令和7年も1、2月に発達した低気圧の通過があったが、被害はなかった。

※2 航行不能 ※3 マリンレジャーに伴う事故者数



(船舶種類別)

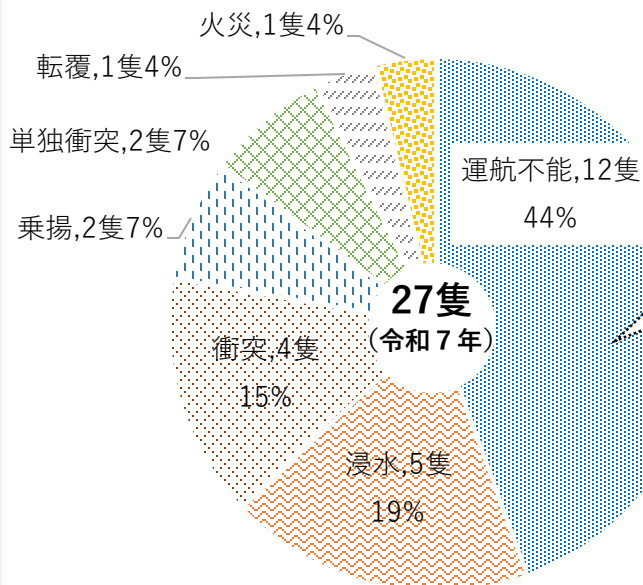
船舶用途別では、漁船とプレジャーボートの合計は全体の半分以上を占めており

漁船：27隻

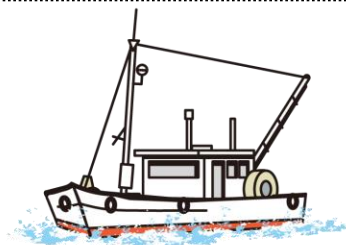
プレジャーボート：26隻

依然として、**小型船舶の事故**が多い。

船舶事故発生状況（漁船）



漁船の事故のうち
44%（12隻）は航行不能
その内訳としては、
無人漂流（海中転落）：5隻
機関故障：4隻 推進器障害：3隻



事例：一人乗り漁船での海中転落事故

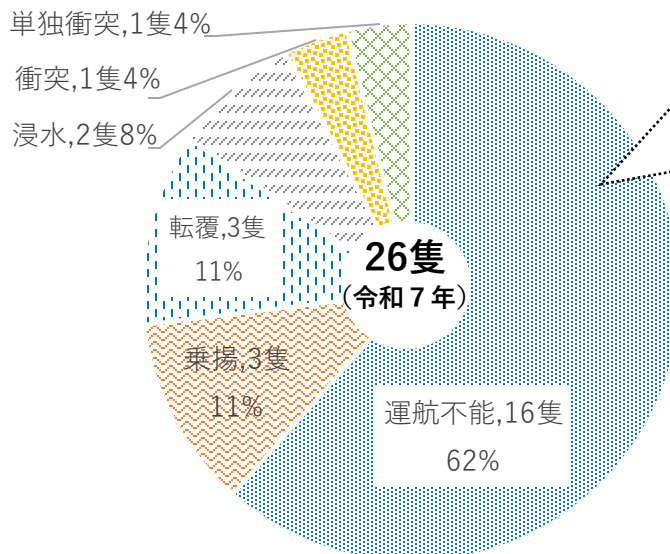
事故者は漁船に単独で乗船し、前日に仕掛けたタコ籠を揚収していたところ、大きなうねりを受け、バランスを崩し、海中転落しました。

事故者はライフジャケットを着用しており、自力で陸岸まで泳ぎ大きな怪我はありませんでした。

対策：万が一の海中転落に備え、ライフジャケットを着用しましょう！
気象の変化に注意し、常に周囲の状況に注意を払いましょう！



船舶事故発生状況（プレジャーボート）



プレジャーボートの事故のうち
62%（16隻）は航行不能
その内訳としては、
機関故障：6隻、操船技能不足：3隻
推進器障害：2隻、無人漂流（海中転落）：2隻
機関取扱不注意：1隻
無人漂流（係留不備）：1隻、荒天難航：1隻



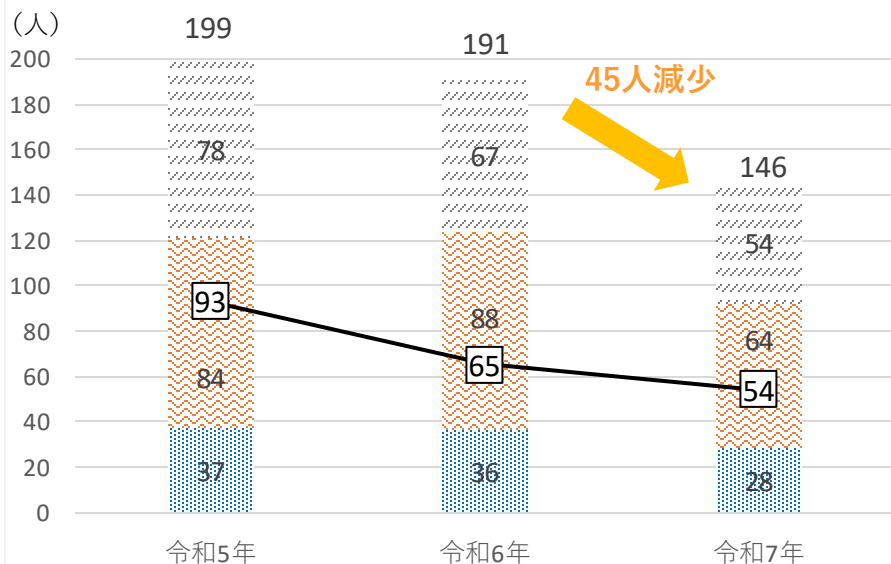
事例：整備不良により機関故障、航行不能により曳航救助

プレジャーボートに2名乗船し、釣りを目的に出港しました。1時間ほど経過後、帰港するため航行を開始したところ、突然船外機が停止しました。事故船舶は、曳航され無事救助されました。船外機からわずかな漏油が確認され、その後の調査の結果、燃料フィルタの目詰まりによりキャブレタが故障していたことが判明しました。

対策：発航前点検は船長の義務です！燃料系についてもしっかり確認しましょう！
安全のため、業者による定期的な点検整備も受けましょう！



人身事故発生状況



■ 人身事故者数：146人
(前年比45人減少)

■ 死者・行方不明者数54人
(前年比11人減少)

■■■■ マリンレジャーに伴う事故者数

■■■■ 船舶事故によらない乗船者の事故者数

■■■■ マリンレジャー以外の事故者数

—□— 死者・行方不明者数

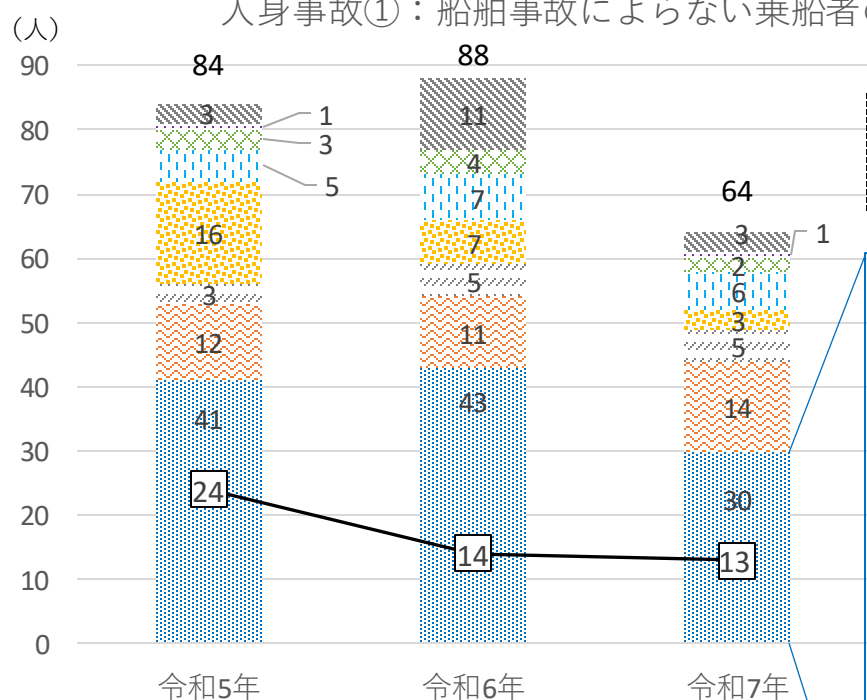
■ 人身事故者数：146人（前年比45人減）

- ① 船舶事故によらない乗船者の事故(病気・負傷等)：64人（前年比24人減）
- ② マリンレジャーに伴う事故(釣り・遊泳等)：28人（前年比8人減）
- ③ マリンレジャー以外の事故(海中転落・自殺等)：54人（前年比13人減）

■ 人身事故に伴う死者・行方不明者：54人（前年比11人減）

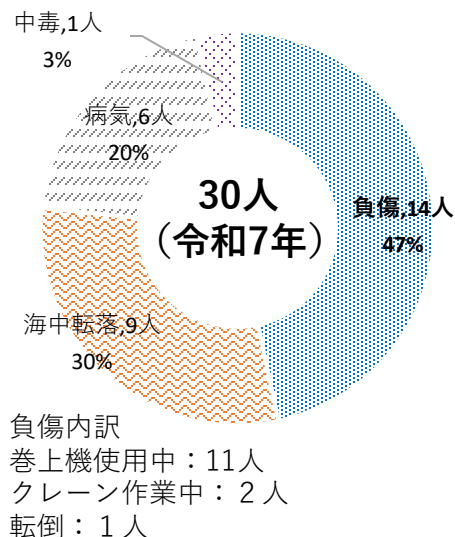
- ① 船舶事故によらない乗船者の死者・行方不明者：13人（前年比1人減）
- ② マリンレジャーに伴う死者・行方不明者：9人（前年比2人増）
- ③ マリンレジャー以外の死者・行方不明者：32人（前年比12人減）

人身事故①：船舶事故によらない乗船者の事故発生状況



船舶事故によらない乗船者の事故のうち
漁船乗船者の事故が約47% (30人)

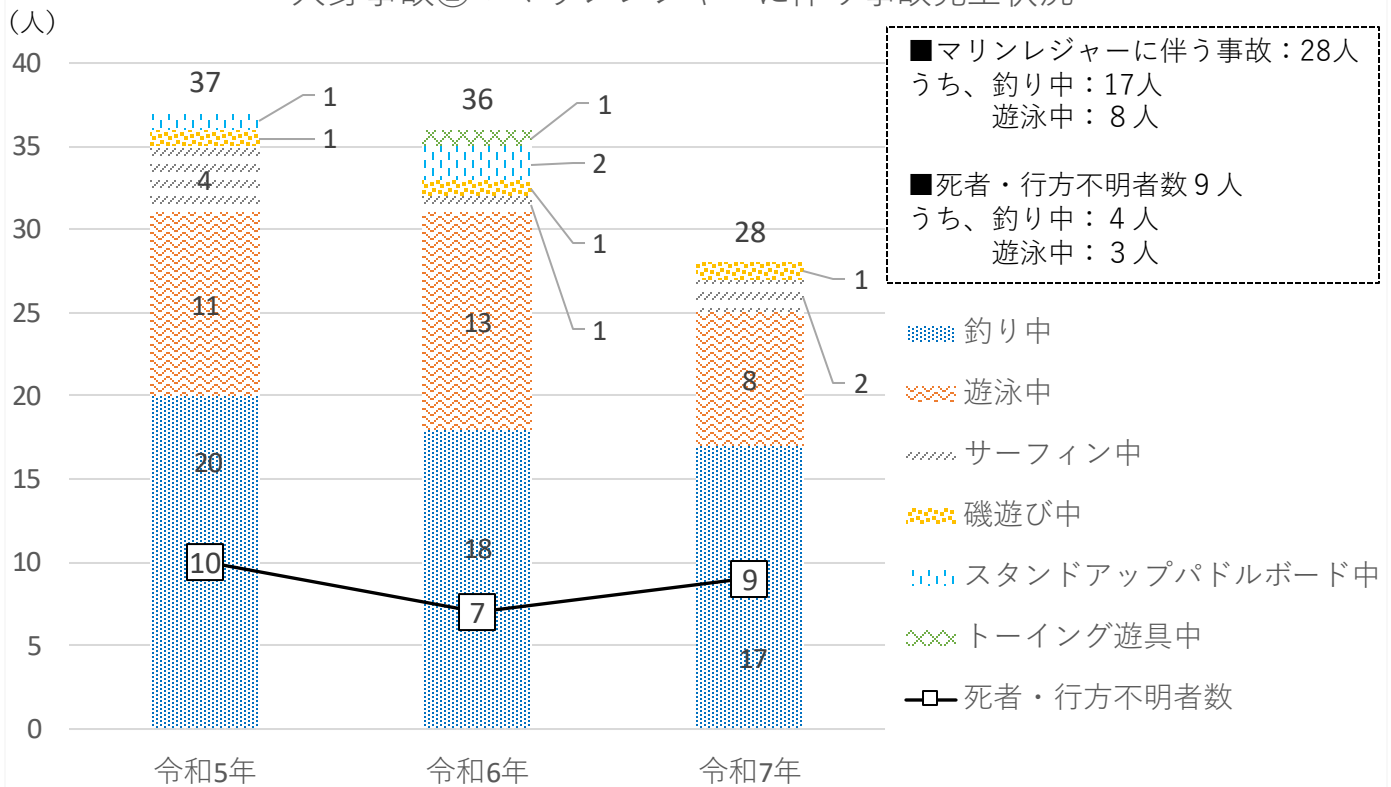
漁船乗船者の事故発生状況



■■■■ 漁船
■■■■ プレジャーボート
■■■■ タンカー
■■■■ 遊漁船
■■■■ 貨物船
■■■■ 旅客船
■■■■ 作業船
■■■■ その他

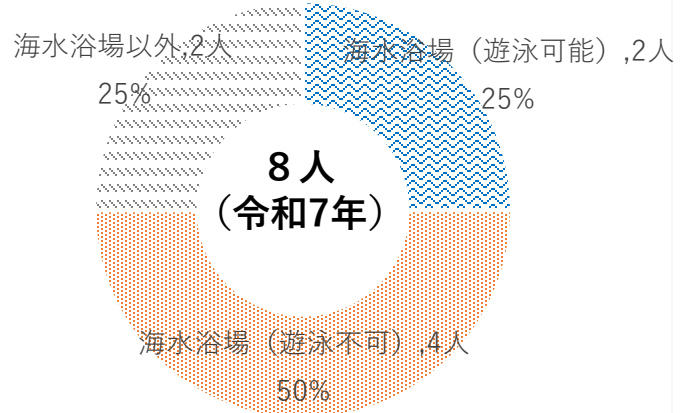
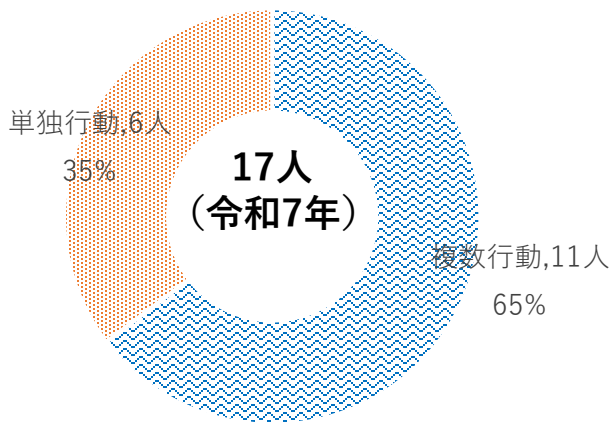
—□— 死者・行方不明者数

人身事故②：マリンレジャーに伴う事故発生状況



釣り中の事故(行動形態別)

遊泳中の事故(遊泳場所別)



事例：釣り中に海中転落！夜間・単独・ライフジャケットの着用も無し！

事故者は午前1時ころ、漁港の岸壁において一人で釣りをしていましたが、誤って照明を海に落としてしまいました。その後も釣りを継続し、足元が暗い状態で仕掛けを投げ入れる際に岸壁から足を踏み外し海中転落しました。

近くで釣りをしていた方が海中転落に気づき、係船ロープで引き上げようとするも救助することが出来ず、近隣住民の方が小型船を出して救助しました。

対策：

最低限必要な装備を準備しましょう！

- ・ライフジャケット・通信装置(防水ケース入り携帯電話)・釣り場に合った履物
- ・早朝、夕方から夜間にはヘッドライト等の照明も準備

複数人で行動しましょう！

・仲間と行動していれば、万が一の海中転落でも、救助される可能性が高くなります
釣り場の状況を確認しましょう！

- ・岸壁などには、突起物やロープ等があるため、足元に十分注意して行動しましょう



「海の事故ゼロ」を目指して!!

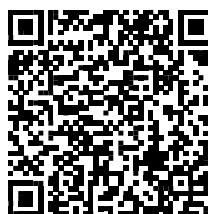
海難防止講習会、訪船指導、事故防止動画の配信などを通じて海難防止活動を実施しています。

■荒天の影響で起こり得る事故と未然防止対策 (YouTube)



発達した低気圧の影響により、東北地方での漁港等において、係留船舶の転覆・漂流の事故が多発しています。同種事故防止のための対策について知っていただくための動画です。

■釣り海中転落防止動画 (YouTube)



釣り中の事故の多くが海中転落であり、その多くが岸壁及び防波堤で発生しています。しかし岸壁や防波堤から海中転落した場合、陸上に戻ることが非常に困難であり、危険であることを知っていただくための動画です。

■離岸流事故防止啓発動画 (X投稿)



毎年、海水浴シーズンになると離岸流による事故が複数件発生しており、残念ながら事故によって死者・行方不明者も発生しています。そこで、離岸流の特性や対処方法について知っていただくための動画です。

■みちのく海のかから版

1周年を迎えました



「海の事故ゼロ」を目指して、令和6年12月に創刊した「みちのく海のかから版」は1周年を迎えました。事象事例や対応策を中心に、海難防止情報を掲載しております。今後も、皆様へ有益な情報提供が出来るように作成してまいります。

- ※1 船舶事故
海上において発生した船舶の衝突、乗揚、転覆、浸水、爆発、火災、行方不明、運航不能。
- ※2 運航不能
運航に必要な設備の故障、燃料の欠乏等により、船舶の航行に支障が生じたことをいう。
例：推進器障害、機関故障、係留船舶の流出など。
- ※3 マリンレジャー
海水浴、釣り、潮干狩、サーフィン、ボードセーリング、スクーバダイビング、バナナボート、ウェイクボード等の海洋における余暇活動の総称。

第二管区海上保安本部 海の安全推進本部(交通部安全対策課)

〒985-8507 宮城県塩釜市貞山通3-4-1 TEL022-363-0111(代表)



海の安全情報 WaterSafetyGuide

